

## 私大連フォーラム 「生成系AIとデジタル技術が切り拓く 大学教育の新時代」

### パネルディスカッション

## 生成系AIやデジタル技術の進展で大学教育はどう変わるか？

### ■コーディネーター 自己紹介

○増谷文生（ますたに・ふみお）

○1971年生 栃木県立宇都宮高校、大阪市立大（現大阪公立大）卒

○94年に朝日新聞社入社、仙台、東京、名古屋、京都、大阪などで勤務

○2005年以降、断続的に10年、高等教育を取材

○現在は論説委員（教育） 兼 編集委員（高等教育）

※趣味：2匹の保護犬との散歩

# ■オンライン授業関連の記事



東京都千代田区の国立情報学研究所、伊藤和行撮影

## いま聞く Interview 喜連川優さん 国立情報学研究所長 オンライン授業支え 見えたのは

きつれがわ・まさる 1955年、大阪市阿倍野区生まれ。国立情報学研究所長、東京大生産技術研究所教授、東京大大学院工学系研究科博士課程修了。専門はデータベース工学。「大規模高性能データベースシステムの理論と応用に関する先駆的研究」で、今年度の日本学士院賞の受賞が決まった。著書に「第五世代コンピュータ」（岩波書店=共著）など。

「シンポがなければ、大学のオンライン授業は一体どうなっていたか」。何人もの文部科学省幹部が、研究所旧7帝大と立ち上げたサイバーシンポジウムの存在の大きさを口にする。シンポは、各大学がオンラインでの授業再開を自指し、右往左往していた3月下旬に始めた。5月中旬まで毎週金曜、以降は週間に1回程度開き、多い時は2千以上が参加した。「スタッフもコンピュータの数も充実する。大学どううまくいかなければ、他の大学でも難しい。率先して取り組んで失敗

### 大学結び3月からシンポ 学生のメンタルや評価法など課題変化

した経験を共有し、働く大学が大きな失敗をしないで済むように、という思いでした。申し込みは誰でも参加でき、記者も3回目から視聴する。毎回異なるかな関西で司会を務めているのが、喜連川さんだ。「4月から、どの大学もオンライン授業になる」と見込み、3月の早い時期に、研究所から7大学にシンポを持ちかけた。参加者300人で「ちんまりと始まったが、あつという間に大学関係者に知れ渡った。録画された発表ビデオの視聴回数は、累計13万回を越える。

#### 一歩先を見て行動

データベース工学が専門で、現在は東京大大学院で教壇に立つ。中国・武漢に響く中国人の教子からの情報もあり、国内ではまだ緊迫感が低かった2月半ばに、「この感染症は大変なことになる。早下手を打った方がいい」と思ったという。3月上旬に予定していたデータベース関連のシンポジウムも、初めてオンラインで開催した。「まずは、ITの学会やつてみせなければ、600人ほど参加したが、若手の先生のがんばりもあり、大過なく乗り切れました。オンラインでの大規模シンポも、やはりできると手応えを感じたという。

#### 小中高校にも視線

「IT分野の学問は日進月歩。常に一歩先を見て行動しないと、あっという間に置いてきぼりを食ってしまう。鋭敏に動いていく習慣が身につけていたのです。」国立情報学研究所は、人工知能(AI)や情報セキュリティなどの分野を研究し、大学にはない最先端の大規模設備などを研究者に使ってもらっている。19ある大学共同利用機関法人の一つだが、国立天文台(東京都三鷹市)や国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市)など比べると、知名度はいま一歩だ。

#### 政策に生きる議論

だが、「実はノーベル賞受賞に貢献しているんです」と喜連川さん。研究所は、全国の大学と研究機関に大倉回線「SINET」を張りめぐらせている。「2008年に小林誠さんと益川敏英さん、15年に梶田隆章さんがノーベル物理学賞を受賞した素粒子の研究は、膨大なデータのやりとりが不可欠で、SINETがなければ不可能だったと言われています。」

◆「いま聞く」は次回(22日)に掲載します。

©朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

# 生成AI関連の記事

## AI時代「もう後戻りできない」

各大学の対応

**東京大 ①**  
「積極的に利用法や社会・経済システムを見たい」として「非常に上手に『つかかかひの人物』」のよう「アノハも含まれる」と注意喚起

**京大 ②**  
教員向けに「教育現場でプラスに活用されることもあるが悪用も」として「口述試験を書き採点などの工夫を」と留意事項を通知

**九州大 ③**  
「新しい技術を活用し、新しい価値の創造を」と伝え「教員にルールを確認する」「機密情報や個人情報を入力しない」と注意喚起も記載

**上智大 ④**  
レポート、論文などの課題について「本人が作成したものではないので使用を認めない。また教員の許可があれば使うことは可」と伝達

**パリ政治学院 ⑤**  
文章や発表資料の作成に、チャットGPTを含むAIの使用を原則禁止

**英ケンブリッジ大 ⑥**  
学生向けに不正行為の解説ページで「チャットGPTの生成物を用いることは禁断行為となる不正行為」

**米ニューヨーク州立大バッファロー校**  
サイトで「本学にはチャットGPTに対して賞罰の取り決めはない」



**生成された回答 学生が添削する課題も**

「ChatGPT(チャットGPT)などの生成AIを、学生一部は活用するようになっていく」といわれている。海外では既に大学も、が、本格的に生成AIを授業に活用する動きが出てきた。▼1 東京大

「この大学でも、このように、生成AIの活用は、これからは避けられない。生成AIの活用は、大規模な課題を出して、自分で考えてもらうようにしたい」と、大杉山田学長は話す。卒業生は「AIは、必ずしも必要ではないが、AIを活用して、自分の考えを表現する能力を鍛えることが、大学で学ぶべきことだ」と話す。また、生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もあるという。▼2 京大

「生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もある」と話す。また、生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もあるという。▼3 九州大

「生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もある」と話す。また、生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もあるという。▼4 上智大

「生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もある」と話す。また、生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もあるという。▼5 パリ政治学院

「生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もある」と話す。また、生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もあるという。▼6 英ケンブリッジ大

「生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もある」と話す。また、生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もあるという。▼7 米ニューヨーク州立大バッファロー校

「生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もある」と話す。また、生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もあるという。

**海外では対応が割れる**

海外では対応が割れている。パリ政治学院は、生成AIの使用を原則禁止している。一方、米ニューヨーク州立大バッファロー校は、生成AIの使用を奨励している。また、英ケンブリッジ大は、生成AIの使用を制限している。また、米ニューヨーク州立大バッファロー校は、生成AIの使用を奨励している。また、英ケンブリッジ大は、生成AIの使用を制限している。

「生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もある」と話す。また、生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もあるという。

**人間の手に立ち判断を**

生成AIに詳しい、国立情報学研究所所長の藤村泰夫・京大特定教授は「生成AIはもともと進歩する柔軟に対応する態度が大事だ。使う側は『ウツ』があることを自覚し、批判的思考を大事にしないといけない。人間がAIの『一段上』に立って判断するということだ」と話す。また、生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もあるという。

「生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もある」と話す。また、生成AIの活用は、学生の学習意欲を高める効果もあるという。

## 対話AI利用 大学模索



**対話AI利用 大学模索**

「期待」  
・依頼に応じて自然な文章を瞬時に作成  
・指示すれば翻訳や方言への変換も可能  
・補助的な仕事の負担を軽減する  
・新たな発想や着眼点が示される  
・知的な作業での対話によって考えが深まる

「懸念」  
・個人情報収集や著作権侵害の恐れ  
・回答に誤った情報が含まれる  
・根拠とした資料を表示しない  
・論文などに使われても見抜くのが困難  
・思考力や表現力を養う教育に悪影響

「GPT4」が3月に公開され、精度の向上が話題になっている。今月7日の入学式で、こうした生成AIが持つ、京大の教員も模索している。AIの文章には誤った情報が含まれたり、根拠となる資料を正確に引用できなかったりする点を指摘し、「情報を集める。サチのみでサチ(研究)という検証を欠いているため、学術リポートとしては致命的な問題点がある」と述べた。

上智大は3月末、リポートや学位論文などの課題について、「本人が作成したものではないので使用を認めない。使用が確認された場合は不正行為に関する処分規定にのっとり、厳格な対応を行う。ただし、教員の許可があれば指針の範囲内で使うことは可」とし、教職員、学生に向けて対応方針を通知した。また、

## リポートには制限 情報整理に期待

通知の末尾では、教育への活用も含め適宜見直しや検討を続ける」と明記した。

東京大は4月3日、太田邦史理事・副学長兼、生成AIに関する発表を公表した。出力された文章にウソが含まれている可能性などに触れ、使いこなすには「中略」回答を批判的に確認し、適宜修正することが必要」とした。リポートについては、学生本人が作成することを前提としており、生成AIのみを用いて作成することはできない」とした。

取材に応じた太田副学長は、学生が使い始めたチャットGPTを自分でも試してみたいと語る。生成AIは、リポートや成果書に大きな影響を及ぼすと実感が必要視されるようになってきたと語る。「GPT4では、学生に課した試験やリポートに、生成AIの活用が注目されるだろう」と話している。

「野副 竹野内崇宏、編集委員・塚本文生」

すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

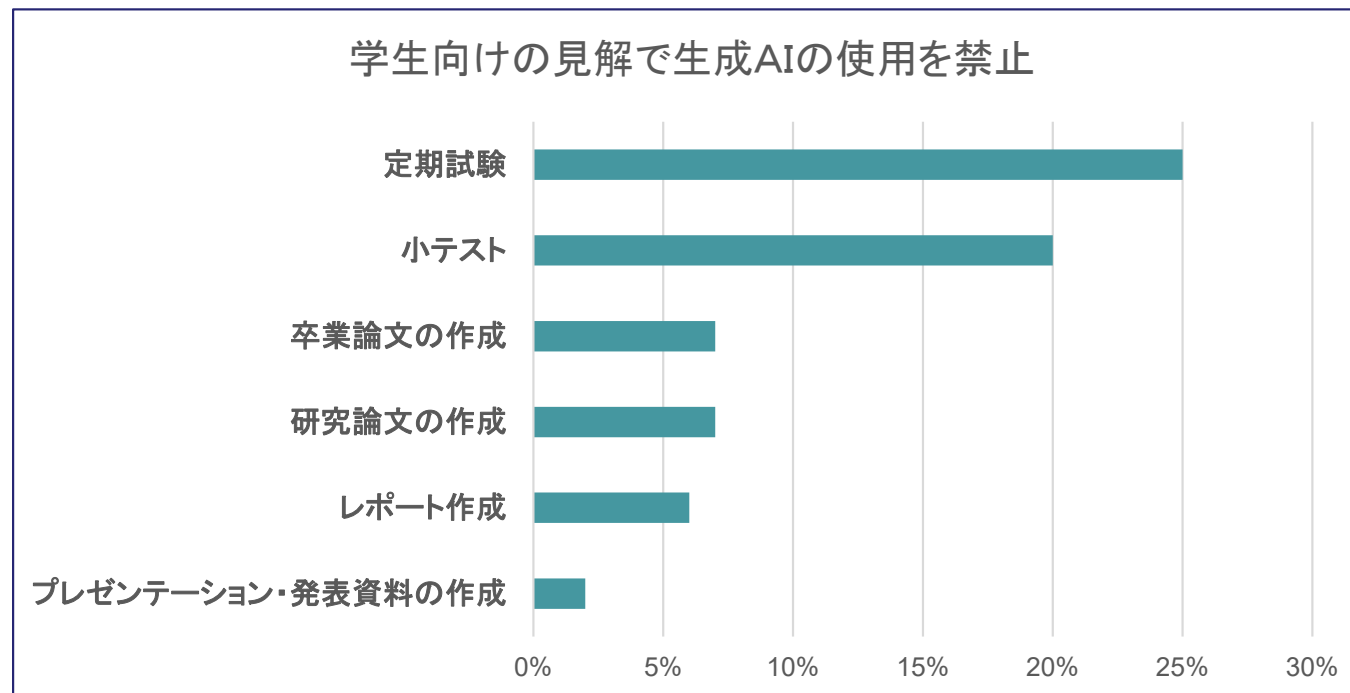
# 朝日新聞×河合塾「ひらく 日本の大学」調査結果より

(2023年6～8月 778大学中643大学が回答 回答率83%)

## ◎「生成AIについて、大学として学生に見解を出しましたか？」

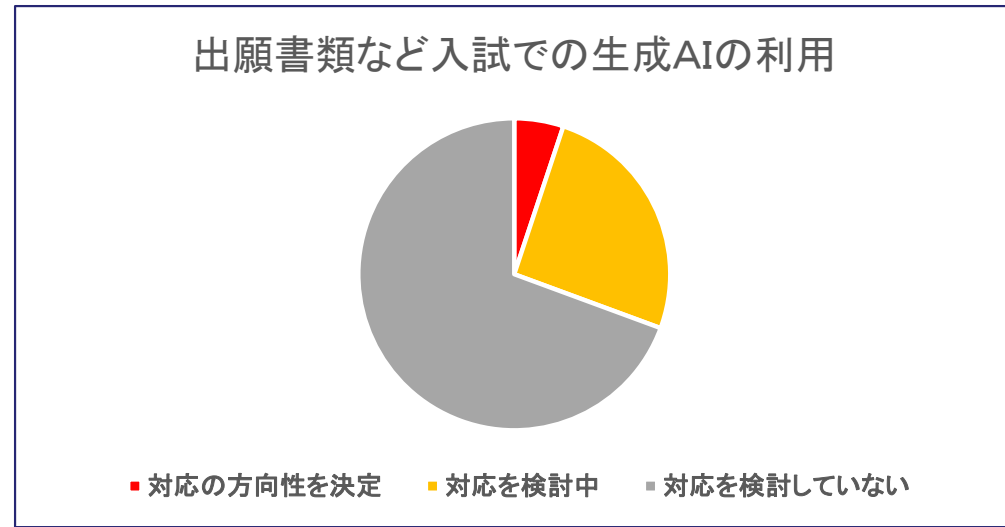
全体54% 国立大86% 私立大49% 3000人以上96% 300人未満33%

## ◎「学生向けに出した見解で、使用を禁止したことは？」

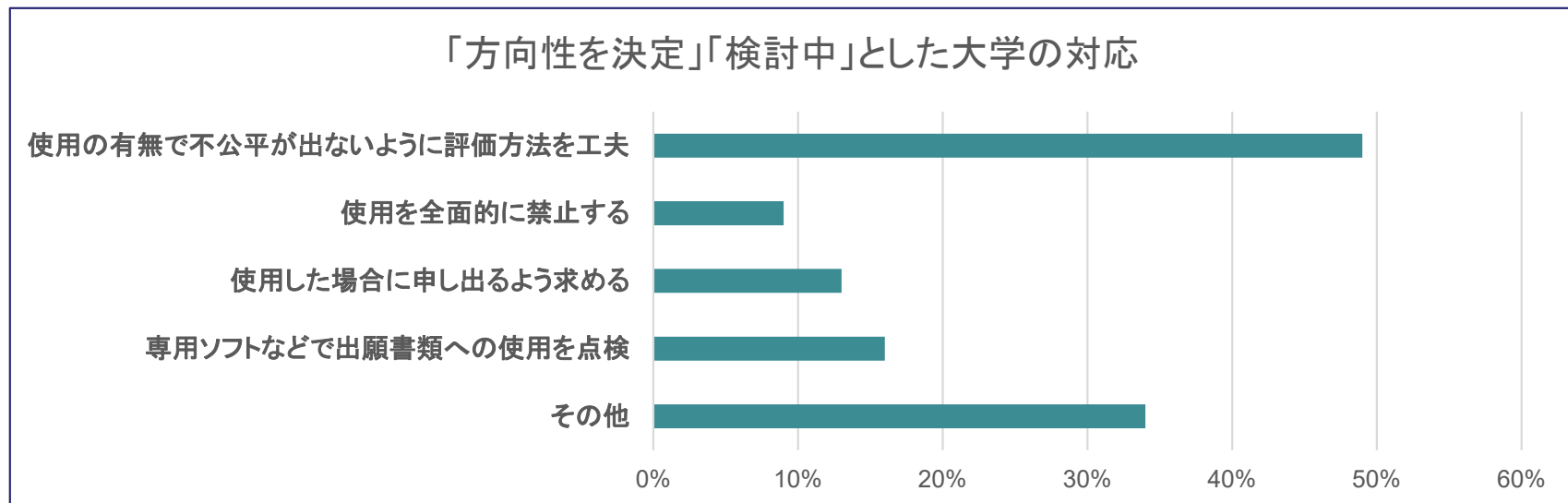


# 朝日新聞×河合塾「ひらく 日本の大学」調査結果より

## ◎「入試の出願書類での生成AIの使用について」

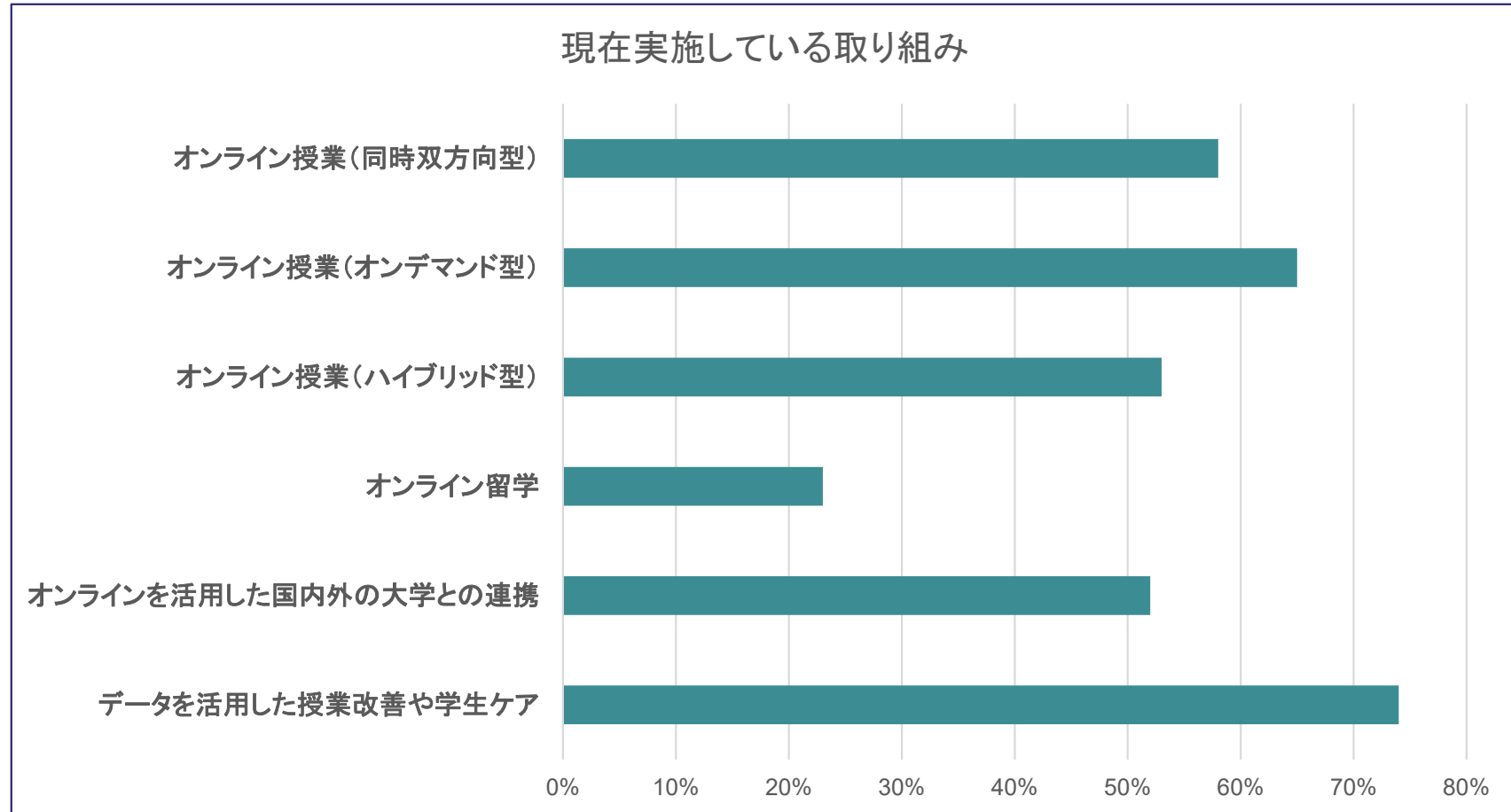


## ◎「方向性を決定」「検討中」とした大学の対応



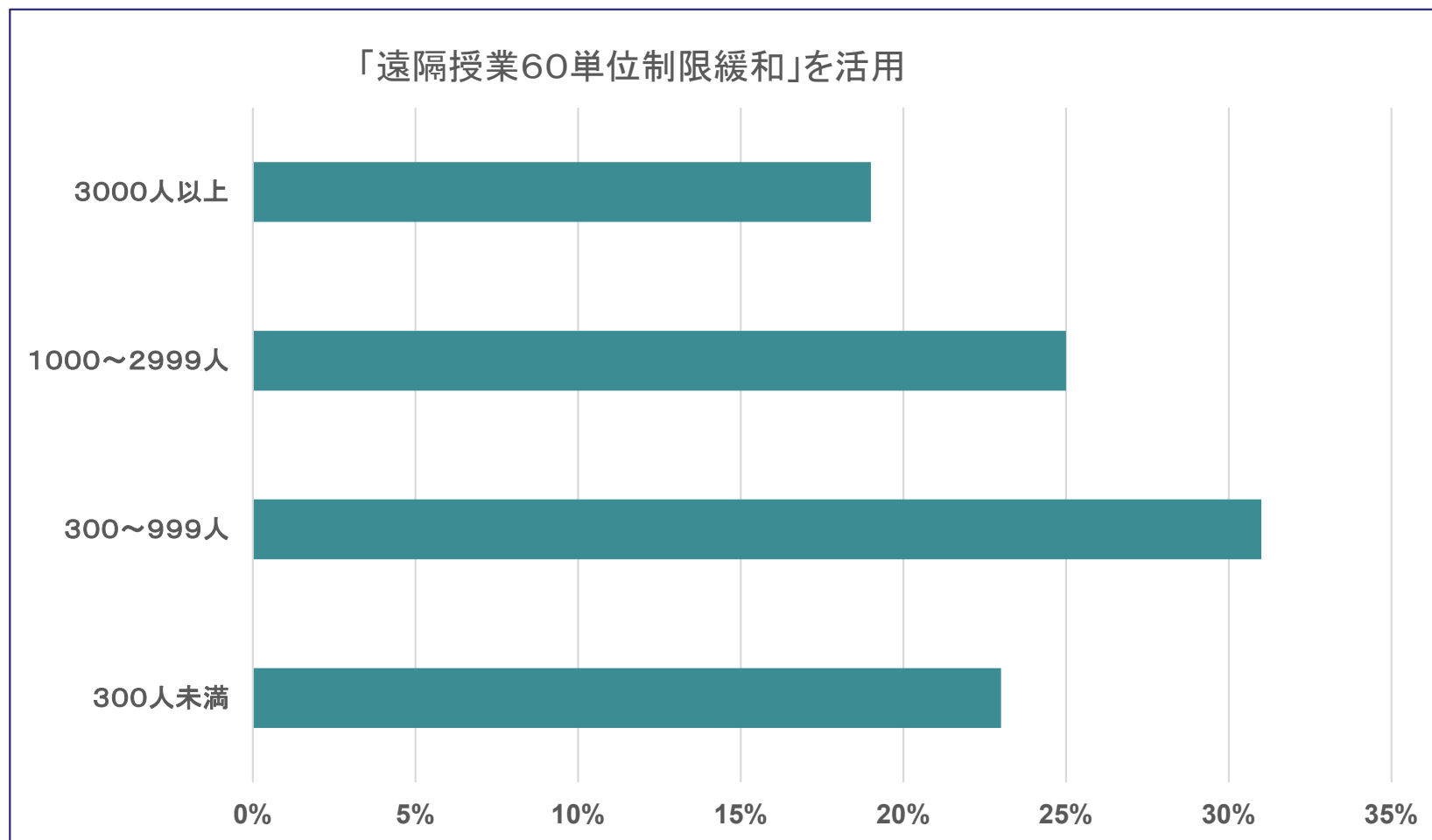
# 朝日新聞×河合塾「ひらく 日本の大学」調査結果より

## ◎ (オンライン・データ活用) 現在実施している取り組み



# 朝日新聞×河合塾「ひらく 日本の大学」調査結果より

## ◎「特例を認めてもらい60単位以上のオンライン授業を展開」



## 朝日新聞×河合塾「ひらく 日本の大学」調査結果より

◎「学部再編などによる特定成長分野（デジタル・グリーンなど）への  
転換等支援制度の活用」

～23年7月、初回公募で67大学（公立13、私立54大学）が選定

